

個性の光を世界に放つ

去る10月1日、私自身3期目の学長任期がスタートしました。振り返ると、過去6年間でできたことできなかったこと様ざまですが、その基盤や反省の上に立ち、心新たに、もうしばらく長崎大学の舵取り役を担わせていただきます。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

私は生まれも育ちも長崎で、生粋の長崎人です。若いころは、長崎の「狭さ」に閉塞感を抱き、何度か長崎脱出を試みたことがあります。いずれの場合も数年後には志を折り長崎に舞い戻るといったことを繰り返しました。結局、65年の我が半生のうち55年近くは長崎で暮らしてきたことになります。

それが、年齢を重ねるごとに、長崎の街のよさを実感できるようになりました。学長に就任して以降は、とくに思い入れが強くなっています。大学が拠って立つべき土地の様ざまな表情に改めて目を凝らすようになったせいでしょうか。

丘の上から見下ろしても、長崎港外に

浮かぶ船から遠望しても、これほど美しい街はありません。そこには心優しき人々が住み、豊かな食があり、そして鮮烈な記憶に彩られた特有の“におい”があります。外に目を転ずれば、豊饒の海が拡がり、その向こうに大陸を望むことができます。

そんな街とともに歴史を刻んできた長崎大学では、個性豊かな研究や人材育成の伝統が培われてきました。熱帯医学、感染症、放射線リスク、海洋資源など日本をリードし、世界に貢献する本学の個性は、全て長崎の風土や歴史と無縁ではありません。

これまでの基盤の上に、多くの特色ある研究や長崎にしかない学びを新たに創生したいと思います。そのことで、世界中の若者をこの地に呼びこむとともに、長崎ならではの研究成果と人材を世界に発信しなければなりません。地域に根差した個性の光を世界に放つ。そんな大学でありたいものです。そのことが、確実に、現在人口減と格差に苦しむ地域の創生に決定的な役割を果たすことにも繋がります。

長崎大学長 片峰 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チヨーホー]
Choho Vol.50

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	個性の光を世界に放つ	1
特集	片峰学長が語る「進化した続ける長崎大学」	2
長崎大学のいま!	薬学部	11
大学の研究最前線	骨を作る遺伝子を治療に活かす	15
地域で活かされる長崎大学の「知」	深堀地区景観まちづくりガイドライン	17
Topics	ケニアと長崎を舞台にした『風に立つライオン』映画化!	19
Information	長崎大学フォトコンテスト・入学試験情報	21
	長崎大学「通」クイズ	22
	編集後記	22

表紙のはなし

昨年秋、文教キャンパスの正門から図書館にかけてレンガ敷きの遊歩道が完成。キャンパスが歩きやすくなりました。今回モデルになってくれた絵になる二人は、長大祭2014のコンテストで選ばれたミス長大の神酒知子さん(経済学部)とミスター長大の古賀勇雅さん(工学部)。